

ご案内

開館時間 午前9時～午後4時30分

休館日 毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）

祝日の翌日

12月28日～1月3日

観覧料 一般 200円(160円)

高校生 100円(80円)

中学生以下無料

()内は、20人以上の団体料金

※ただし、特別企画等は特別料金を設定させていていただく場合があります。

駐車場

アート
まちかど 普通車8台

漫画館 大型バス2台、普通車27台

（漫画館へは県道403号線コメリ更埴店角を北へ進行右折し道なりに保育園通過後左側）

蔵し館 大型バス2台、普通車10台



千曲市教育委員会
千曲市文化課 文化施設



アートまちかど 電話 026-272-4152

〒387-0007 千曲市大字屋代2176-2

ふる里漫画館 電話 026-273-5639

〒387-0021 千曲市大字稻荷山2181-1

稻荷山宿・蔵し館 電話 026-272-2726

〒387-0021 千曲市大字稻荷山931



漫画館全景

白壁の家並が美しい蔵の町稻荷山。その一郭に建つ重厚な蔵造り風の建物が漫画館です。

■ 1階は近藤日出造の世界

漫画で政治を大衆に近づけた政治漫画の第一人者として、世界的に有名な「近藤日出造」は稻荷山の出身です。

常設展示室には、数多くの日出造作品と日出造が実際に仕事で使用していた机などを展示しています。

また、近藤日出造門下で、読売新聞や大相撲錦絵で活躍している松林モトキ(当市出身)の作品も展示しています。

■ 2階は楽しい漫画の世界

訪れた皆さんを夢と創造の世界へと導く空間がここにあります。

図書室には、楽しい漫画本がいっぱいです。4000冊を超える新旧名作漫画をご自由にご覧ください。



近藤日出造氏



「ふんぎりつかず」(S23年)



二階図書室風景



世界的漫画家「近藤日出造」

※

毎年、元旦の読売新聞紙上を飾っている「読売国際漫画大賞」の「近藤日出造賞」で世界的に有名な近藤日出造は、明治41年2月15日、長野県更級郡稻荷山町(現・千曲市大字稻荷山)で、父・三津蔵(洋品雑貨店主)母・くめの二男として生まれる。(本名・秀蔵)

稻荷山尋常高等小学校を卒業後、昭和3年(20歳)漫画家を志望し上京する。当時のの人気漫画家「岡本一平」の弟子となり修業する。

※読売国際漫画大賞は平成20年に終了しました

昭和7年 無名の漫画家を中心に、「新漫画派集団」を結成する。

昭和8年 読売新聞社に入社する。51年1月に倒れるまで、政治漫画・似顔絵・座談会の司会等を行う。

昭和15年 新日本漫画家協会を設立し、高級月刊誌「漫画」を発行する。この本から立派な漫画家がたくさん育つ。

昭和39年 日本漫画家協会初代理事長に就任する。

昭和40年 「東京デザインカレッジ」の理事に就任し、新たに漫画科を創設する。この学校から若く優秀な漫画家が続々と生まれる。

昭和49年 紫綬褒章を受章する。

昭和50年 菊池寛賞を受賞する。

昭和54年 3月、71歳で亡くなるまで、漫画の質的向上、漫画家の地位向上に一生を捧げた偉大な漫画家。

アートまちかど

千曲市アートまちかどは市民の皆様をはじめ多くの方々に美術に親しんでいただくための施設です。

1階には三つの創作室と市民ギャラリーがあり、絵画や陶芸、彫刻などの講座やサークル活動と発表の場として活用いただけます。

2階は美術作品を鑑賞する展示室（美術館）として、郷土にゆかりのある作家の絵画・書・版画・陶芸・工芸などの常設展示のほか、企画展も開催しております。

創作室

1階には3つの創作室があります。
活動の内容に応じて、ご利用ください。

第1創作室

65m²の洋室で講義、絵画、書道等に利用できます。講義の場合、概ね30人以下が適当です。長机、椅子、石膏像、イーゼルを備えています。

第2創作室

50m²の洋室で、陶芸、彫刻等に利用できます。作業台、ろくろ6台（電動、手動）、水道、整理棚等を備えています。なお、窯（灯油、ガス窯）も使用できます。

第3創作室

30m²の洋室。織機を備えています。



アート正面玄関



2階 展示室風景

市民ギャラリー

第1創作室



第2創作室



第3創作室



市民ギャラリー

75m²の洋室。各種発表の場としてお使いいただけます。パネル・吊り具なども利用いただけます。

市民ギャラリー利用方法

- ◆ 休館日 月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月3日
- ◆ 利用時間 午前9時～午後4時30分
- ◆ 利用料 原則として無料
- ◆ 申し込み方法 事前にアートまちかど事務室でお申し込みください
- ◆ 受付時間 午前9時～午後4時30分まで



創作室

休館日 月曜日、祝日の翌日、12月28日～1月3日

利用時間 午前9時～午後10時

利用料 1時間につき100円
(実費分徴収あり)

申し込み方法 事前にアートまちかど事務室でお申し込みください

受付時間 午前9時～午後4時30分まで

【千曲市稻荷山のご紹介】

16世紀末、上杉景勝が千曲川の氾濫原であった葦藪に稻荷山城を築き、町割をして人々を住まわせたことに始まる町といわれます。やがて市がたち、在郷町が形成されます。更に街道や宿場機能の整備によって北国西街道（西京街道・善光寺道）随一の宿場町として発展します。幕末には生糸輸出の活況から繭・生糸の集散場として一大商業地となりましたが、鉄道の発達を機に漸次衰退の道をたどります。しかし、現在も町のあちこちに、繁栄をきわめた頃の土蔵造の町屋や、生活用水として町中を縦横に巡らせた水路・水濠の跡をみることができます。

稻荷山年表

- 711 (和銅4) 更級の里に養蚕を伝えた秦氏、山城国(京都)の秦氏にならい稻荷を祀る(秦神社のち治田神社)
- 927 (延長5) 『延喜格式』に「治田神社」の名がみえる
- 1582 (天正10) 上杉景勝、城を築き、町割をして、往還を城下に転ずる
- 1606 (慶長11) 北国西街道、八日町～治田町通に転じ、稻荷山へ「宿役」渡る
- 1619 (元和5) 桑原村から稻荷山村分村
- 1730 (享保15) 「当所に九斎市がたっている」という記録がある
- 1804 (文化1) 「のぼせ糸」の運上始まる 養蚕が盛んになる

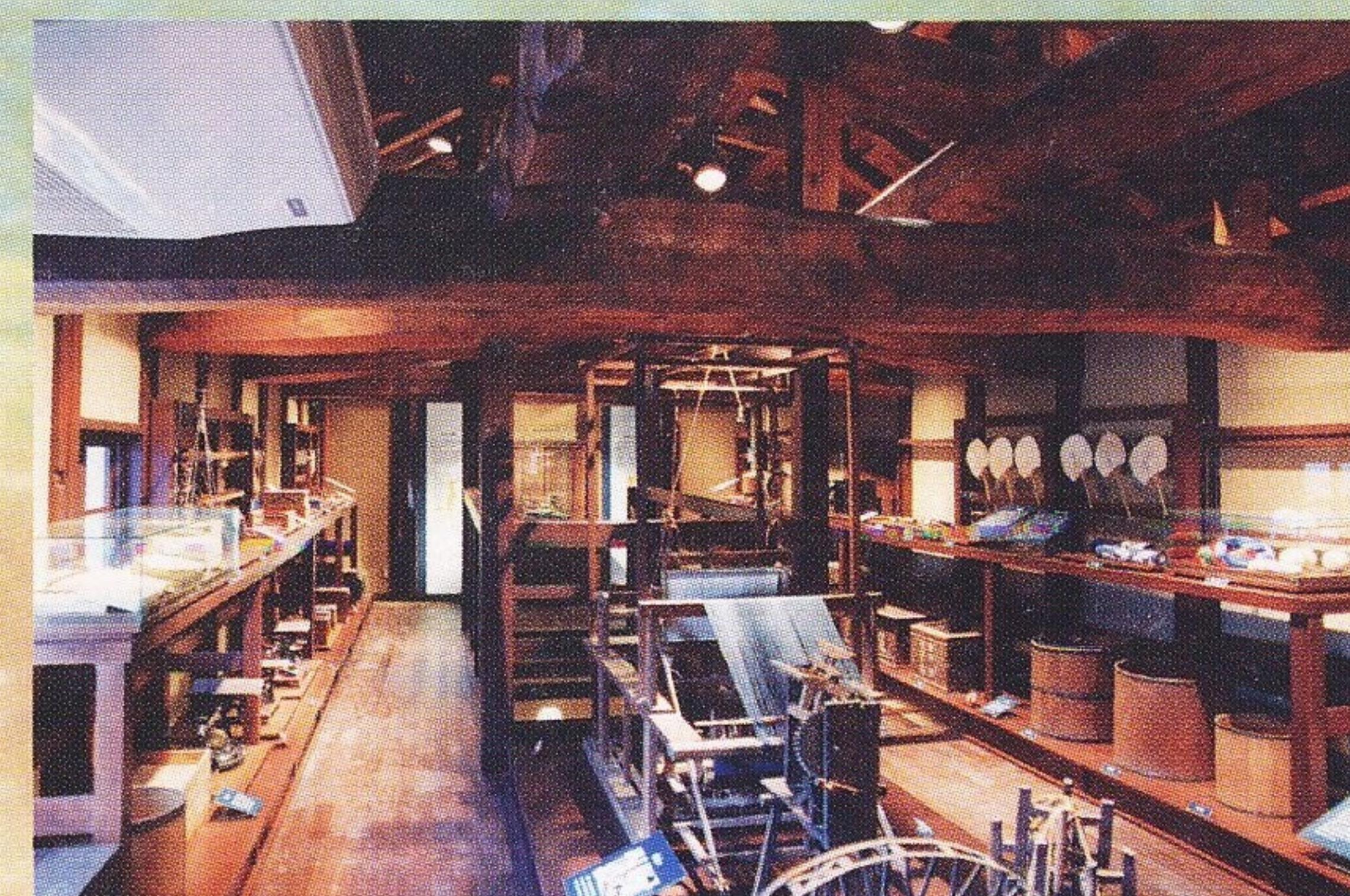


主屋

1876 (明治9)	稻荷山村から稻荷山町となる
1880 (明治13)	生糸輸出高、群馬を抜いて全国1位となる。 稻荷山銀行創設
1882 (明治15)	稻荷山電信局開業 稲荷山銀行が六三銀行となる この頃から十数年、稻荷山の商業活動全盛期
1888 (明治21)	信越線「屋代駅」、2年後、篠ノ井線「稻荷山駅」開業
1913 (大正2)	メリヤス工場が興る
1921 (大正10)	稻荷山上水道完工
1923 (大正12)	関東大震災 六三銀行本店が長野市に移転
1929 (昭和4)	世界恐慌起こる 繭・糸価暴落し、空前の農村不況となる
1941 (昭和16)	太平洋戦争勃発 昭和19年、東京靴下長野工場が疎開
1955 (昭和30)	稻荷山町と桑原村が合併し、稻荷山町となる
1959 (昭和34)	稻荷山、屋代、埴生、八幡が合併し、更埴市となる
2003 (平成15)	更埴市、戸倉町、上山田町が合併し、千曲市となる



資料館



展示室

【稻荷山宿藏し館】

幕末から明治期にかけて「商いに国境なし」という「稻荷山魂」を説き生糸輸出の先駆者ともなった「カネヤマ松源製糸」の松林源之助・松林源九郎が築いた「松林邸」を修復・再生したものです。主屋は古い町屋の生活空間を再現しています。

敷地中央の土蔵は、内部未公開ながら外観に往時の姿を見ることができます。西側二階建倉庫は「くらしの資料館」としてかつての稻荷山の生業や生活のようすを物語る民族的資料を多数展示しています。

主屋

白土壁で塗り固めた典型的な「土蔵造」の建物です。これは、江戸で発達した耐火建築様式を、弘化の大地震の後、いち早く取り入れたものといわれます。街道に面して頑丈な大戸とくぐり戸が設けられ、土間に続きます。土間右手の部屋がオタナ(店)で、商いの最先端でした。その奥に居間と中座敷、奥座敷が続きます。二階は、商品の保管室、遠来の客の接待、宿泊、宴会場、奉公人部屋…などと、さまざまな機能をもっていました。

土蔵（資料館）

「くらしの資料館」としましたが、かつては商品の保存蔵で、南北に階段が設けられ、階段吹き抜け穴が広くとられています。二階吹き抜けの上には、大きな滑車が取りつけられ、商品の出し入れが頻繁に行われていたことを示しています。またこの二階は、コミュニティホールとして、しばしば寄合いや宴会、時には経済・商法研究の場として用いられ、稻荷山の人々の心をつなぐサロンともなっていたといいます。